

## 《高校生の部》最優秀賞

大川学園高等学校 3年 なおい はる  
直井 春

### 「自分らしく生きる」

「きょうだい児」という言葉を知っていますか。きょうだい児とは、障がいや病気のある兄弟姉妹を持つ子どものことを指します。私は高校で福祉を学ぶ中で、「きょうだい児」という言葉を知りました。それと同時に、私は身体障がいを持つ弟がいるため、「きょうだい児」という立場にいることも知りました。

日本では、きょうだい児の統計は測っていないが、障がい者の数や児童数から人口の6.5パーセントがきょうだい児と推測されています。そんな中、周囲の人々に打ち明けられず一人で抱え込んでいる人が多くいます。私もその一人でした。例えば、装具を着用していることにより、周囲の人からジロジロ見られたこと、階段の昇り降りや交通機関の乗り降りが遅いことによりイラつかせてしまったことがあります。本人が一番辛いはずなのに、その状況を目の当たりにして傷ついたこともあります。弟のことで優先され、我慢することもありました。その他に、親亡き後問題から、将来への不安を抱えることもあります。これらの悩みは、周囲の人々から気づかれにくいです。この「見えにくさ」によって、きょうだい児は悩み苦しむのだと考えます。

福祉の授業では、高齢者福祉、児童福祉、障がい者福祉などを学んできました。その際に福祉を必要とする人の支援などを考えました。障がい福祉を学ぶ中で、きょうだい児が出てきました。きょうだい児の抱えている悩みから支援を考えました。私はこの授業を通して、悩んでいるのは、自分だけではないことを知り、心が軽くなりました。精神的な面での負担が大きいため、話に耳を傾け、寄り添うことで救われる人はいるのではないでしょうか。

近年、LGBTQの話題をよく目にします。一昔前の認知度は現在と比べると低いです。しかし、当事者が声をあげたこと、メディアや学校などで取り上げられたことで、現在は多くの人に知られるようになりました。きょうだい児もLGBTQと同じくらい認知度があがれば、きょうだい児に対するイメージが変わっていくと考えます。周りの人は、偏見的な考え方を無くす必要があります。しかし、きょうだい児の存在を知らなければ、偏見的な考え方が始まってしまいます。当事者が周りの人に話すことで、きょうだい児の存在、自分の苦しみを理解されやすくなると考えます。しかし、周りの人に打ち明けることは勇気がいることです。学校の授業やメディアで取り上げることで、話しやすい環境を作るべきと考えます。打ち明けられる環境があり自分の抱える悩みを話すことで精神面での負担は軽減されるのではないでしょうか。しかし打ち明けられた人は、最初は戸惑うでしょう。その時は、耳を傾けてください。傾聴することで、きょうだい児への理解が深まると考えます。

福祉の漢字には、どちらにも、「しあわせ」という意味があります。福祉を必要

とする人だけではなく、福祉を必要とする人を支えている人、共に生きている人、誰もが幸せに暮らすべきです。自分の立場を隠さずに、自分らしくいられる社会になってほしいです。いつか日本の未来が、現在よりもきょうだい児の認知度が高まり、認めてくれる社会になることを願っています。